

## 看護未来塾 第9回勉強会 アンケート集計

日時：2020年9月12日（土）13：00～15：00

開催方法：Zoom

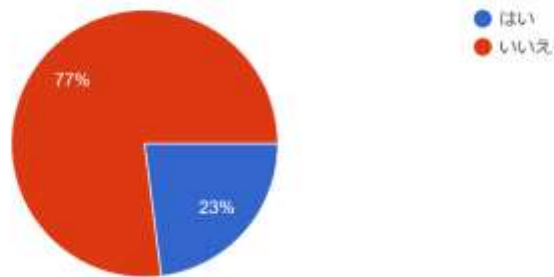
参加申し込み：188名

参加者：延べ164名

アンケート回収：100件

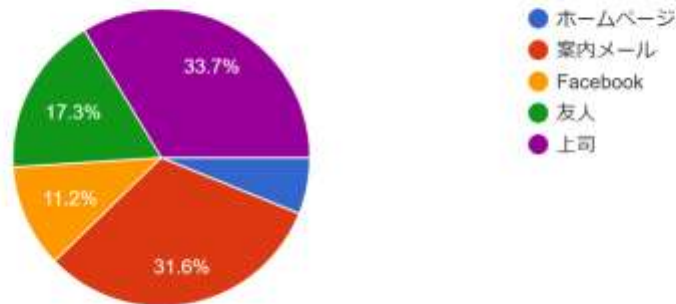
### 看護未来塾の塾員ですか

100件の回答



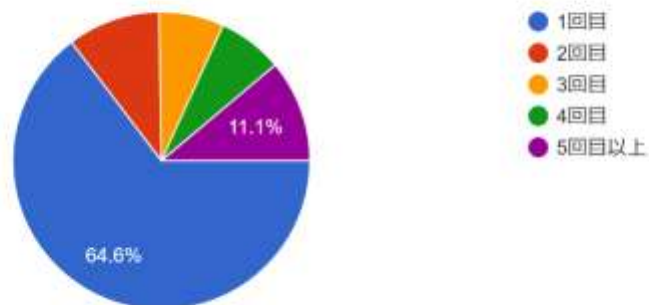
### 今回の勉強会が開催されることをどのように知りましたか

98件の回答

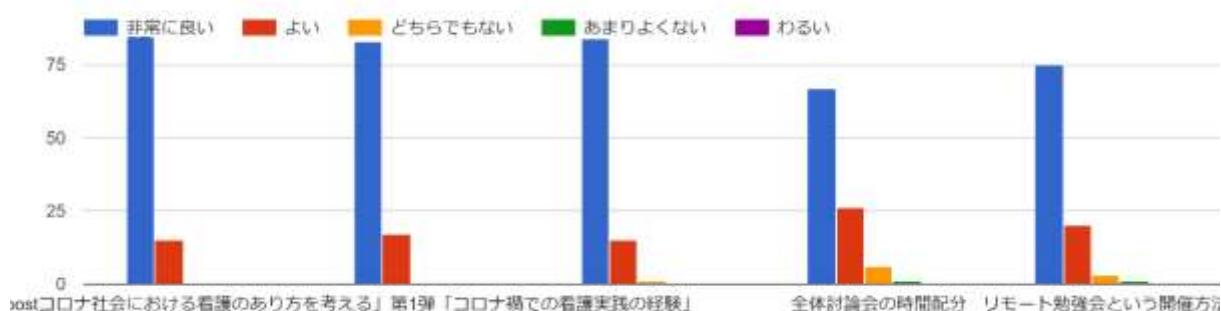


### 看護未来塾勉強会への参加は何回目でしょうか

99件の回答

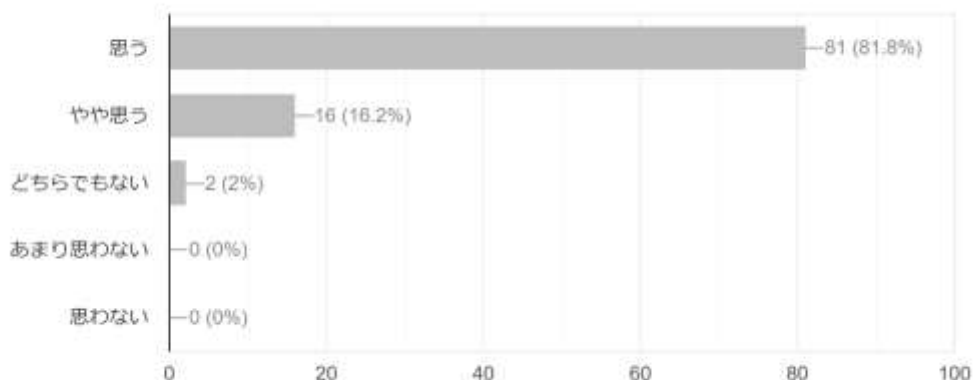


第9回勉強会の趣旨についてあてはまるものを選択してください



また、看護未来塾に参加したいと思いませんか

正解 0/99 件



### 1. 今回の勉強会に関して、意見・要望

<感想>

参加させていただいて同じように COVID19 と闘っている看護師が今も多くいることを改めて知ることができてなんだか涙が出てきました。今は看護体制もお給料の面も病院から考えて配慮していただけるようになりましたが、2月からずっと、私生活上でも注意して仕事や生活しなければならず、もう少しでいいので看護の仕事のさまざまなバックアップがあればいいと思いました。患者さんのために尽くすと奉仕の精神で考えてしまうので、きちんとした制度や支援、それに見合う給料体制が必要なんだと改めて思いました。看護の力、新しい看護の未来に思いを馳せることができ、勇気を頂きました。ありがとうございました。

私たちも COVID19 陽性者をみっていますが、幸いに全員帰宅してます。ですが、同じフロアに一般の患者とその付き添い者がいて、看護しています。4月以降、これまで当科が受けていた疾患や患者の月齢等などの患者の層に変化がありました。生後1か月未満の患児の入院、1歳未満の体重増加不良の患児の割合が植えていました。何だろうかと思っていましたら、最近、要因の一部が分かったように思います。おっぱいのケアがうまくできない、うまく、おっぱいが飲めない。離乳食がうまく進められていない等の母たちとの会話から、保健所等の両親学級やファミリーサポートが中止になり、助けを求めても答えてもらえない、うまくできない人達が少なからずいたことに気づきました。これには、地域格差もあるようです。COVID 関連に保健所が手を取られ、感染予防が要因となり様々社会サポートが機能していないことにも、看護職として目を向けていかなければいけないのだと思います。

感染管理、感染対策の問題だけではない様々な課題を考えることができました。

私の施設はがん専門病院ですが、東京都の要請を受けて 25 床のコロナ専用病棟を設置して軽症、中等症患者の受け入れをしています。人員配置も大変悩ましい問題で、看護師をどう確保して、コロナ診療と通常

のがん診療を両立させていくかは大きな課題です。コロナ病棟での勤務時間や継続期間に配慮をすることも必要ですが、一般病棟のがん患者さんへの看護力を削らざるを得なくなることは懸念材料です。育児休業からの復帰者も保育園に入れずに復帰が遅れ、看護師の欠員を招く事態も発生しています。学校や保育園の休業も看護師人員に影響を受けています。社会全体が医療の確保に貢献していることを知ってほしいな、と思います。

また、当院のがん患者さんで疑い症状で緊急入院する方は毎日続いています。実際に陽性であることは全くと言っていいほどありません。がん患者さんの生活習慣やセルフケア、意識の高さ、それに関わってきた看護師の力も感じます。感染すると重症化しやすいリスクはあるかと思いますが、そうならないケアは日常の中(これまでのケア)にあったのだと考えたりしています。

疑い扱いのまま最期を迎えられたとしても、当院では、陰性確認される可能性の方が高いので、わかるまでお預かりして、通常の御見送りができるようにしています。また、陽性患者であった時、原疾患であるがんの病状や治療も踏まえた ACP をすすめ、意思確認をしていくことの意義を考えさせられています。

がん専門病院でありながら、コロナ病棟を持つことは、がん看護を志して集まった看護師にとっては葛藤と苦悩の連続ではありますが、1日も早くがん専門病院としての本来の使命を果たせるよう、コロナ診療の体制が整備されることを願う毎日です。

討論会の中で少し意見が出ましたが、当院でも COVID 担当スタッフと通常業務を行うスタッフの間で軋轢が生じた場面がありました。軽症、中等症患者の COVID 病棟は分離されていますが、重症患者は ICU 内の一部を運用しているため、同じフロア内に COVID 担当看護師とそうではない看護師が混在していることも要因だと思います。また、感染管理担当部署ともコミュニケーションが十分にとれず、トラブルが生じることもあったため、ICU 内に感染担当スタッフが常在あるいは毎日巡回する等の対応があるとありがたいと思いましたが、現実には難しいようでした。

当院は少数の重症患者の受け入れにとどまりますが、それでも日々問題や課題を抱えている状況です。よりよい看護が提供できるよう、考え続けていきたいと思っています。

話題提供施設の方の話は、胸が詰まるような思いで聞かせていただきました。感想だけでもお伝えしたかったのですが、泣きそうでできませんでした。本当に貴重なお話をいただき、ケアの実際や看取りのことなど、最も世の中の人たちに聞いていただきたいと思いました。

当院でもコロナ患者の重症を受け入れています。なかなか現場の気持ちが伝わってこないため、今回の勉強会に参加しました。どうしても閉鎖的な気持ちになってしまうのが理解できました。

当院でも起こっていることですが、患者のベッドサイドには看護師だけで他の職種は一切行きません。チーム医療と言いながらこのような危機的な状況になると、知らんぷりです。コロナ患者の退室後、部屋の清掃に看護師が3時間もかけて行いました。病院がすぐに UV 照射の除菌機械を購入してくれたため、現在は掃除に関しては問題が解決したので、そのことには感謝しています。

なぜいつも看護師なのでしょう？掃除や中のメンテナンスなど、看護業務以外のことも全ての業務を担わせる現状は絶対におかしいです。このことをぜひ世間の方にお知らせいただきたいと思っています。

COVID-19 は、私たちの生活や考えをがらりと変えて、苦しいことも多いのですが、いつものあたりまえの中にある大切さや、発想の転換による前進も、もたらしてくれました。テレビで聖マリアンナの方々を見て凄いな...とただただ思っていたのですが、本日は本音というか、裏事情というか、そのようなところも見せていただいて、どこの病院も悪戦苦闘しながらなんだな...ということがわかり、自施設でも頑張っって向き合っていくと、勇気をもらいました。

コロナ禍で精神医療の現場と教育分野で横断的に仕事をしながら、看護の意味や役割を自問自答する日々です。改めて今、看護とは何かを深く考える機会となりました。

コロナ陽性患者の中等症を受け入れている部署の看護部長をしています。感動しました。自施設と比べながら、聴きました。当院も他部門から業務を断られており、看護師が全てを行っています。病院の決めたことなのに、なぜ？という思いがあります。

患者さんの死亡時の件ですが、当院ではご家族に PPE を装着後、ご面会していただいています。

コロナ対応の最前線で働く看護師の実践をお聞きすることができ、現場で働く看護師が、患者と日本の医療、そして社会をどのようにして守っているのかを知ることができました。私も一看護師として、今何ができるのか、考えなければならぬと感じました。

中村さん、今野さん、津田さんのお話はとても衝撃的で、お聞きするだけで涙が出そうになり、自分には何ができるだろうかと考えながら聞いておりました。また、このようなつらい体験も含む内容についてお話をされるのが3名の方にとってご負担ではないのかと心配もしましたが、最後のまとめで「自分たちのやってきたことの振り返りができた」おっしゃられて、ホッとしました。貴重なお話をお聞かせいただき心より感謝いたします。

大変な中仕事をされている看護職の方々ですが、そのような方々が疲弊してしまうことなく、より良い看護を、より長く提供できるように支援が行われる必要があると改めて感じました。

どのような状況に置かれても患者に寄り添う看護の実践は素晴らしいと改めて実感しました。看護が輝くために、働き方、体制、看護職人員確保、財政面など政策に繋げていくためにも、現場からの発信は重要だと思いました。

期待以上の収穫でした。とても励みになりました。また、心の奥底にある要望を声にして出すことの大切さを感じました。

看取りの看護、コロナ対応する看護師を初め多くのスタッフへの対応、今後の課題として私自身考える機会となりました。

急性期病院内のコロナ対応の実際を知ることができ大変学びになりました。現場からの生の声は、想像を超える内容もあり、改めて取り組むべきことが多いと考えさせられました。私は日頃在宅で看護に携わっていますが、同じ看護師としてより良い看護実践に繋がるよう、協働できることを考えていきたいと思います。

胸が詰まり最後には涙が溢れました。こんなに勇気づけられる会になるとは予想していませんでした。案内して下さった佐藤先生に心より感謝いたします。また、実践をご発表くださった方々やデスクッションでご意見くださった方々、南先生・川島先生を始めとする先生方の今後の展望を示唆して下さるご意見、全てが今の私が経験している現状を変えるためのたくさんのヒントとなり、救われる思いがしました。本当にありがとうございました。

現場でのことが、よく理解できました。本当に様々な問題を抱え、直面しながら、ケアを行ってくださっている姿に脱帽でした。日々現場に立ってくださっている方々に感謝です。正しく恐れ、私たちの役割としての最大限のケアを行う、そしてそれを続けていくことが重要だと思いました。持続可能なケアのあり方について、検討していくことの必要性を感じました。

現場の看護師の方々々がコロナ下において患者の命を守り、かつ少しでも最善の看護を提供できないかと日々格闘されている様子を聞き、胸が熱くなりました。しかし、看護師の患者・家族への想いや奉仕の精神だけでは、このような異常事態に対応し続けていくことはできません。看護師が安心して患者・家族への看護に打ち込めるようにするためには、過酷な労働環境や制度を整える必要がある事がひしひしと伝わってきました。最後に、このような環境下においても看護の本質を自問自答し取り組み続けている姿に、感銘を受けましたし誇りに思いました。私の考える看護のあり方や自身の看護観にも大きな影響がありました。このような貴重な機会に参加させていただき、ありがとうございました。

現場の写真や生の声を聞かせて頂き本当にありがとうございました。途中涙がでる思いでした。医師も対等にチームの一員となっている環境と、指示される立場としての環境では看護職の体力的な負担はもちろんですが、精神的な余裕が異なるのだなと改めて感じました。

現場の方のリアルな看護の様子を聞くことができ、非常に勉強になりました。現状の勤務時間帯や PPE の装着などにとらわれない柔軟な発想を持って、日々の看護に取り組んでいきたいと思いました。

今回の勉強会をきっかけに看護未来塾について知ることができてよかったです。現場の最前線で活躍されている方々の貴重なお話を聞くことができ、看護の可能性(看護に終わりはない、できないことはない)、素晴らしさなど改めて尊い職業だと実感しました。このような機会を設けていただき、ありがとうございました。

大変な状況下、大奮闘しているナースに心からの拍手。葛藤しながらも寄り添ったケアをしていることに、感動しました。支援についてあまりにつつましいお答えに、本当に看護職のつつましさ、生真面目さが胸に詰まりました。川嶋先生や南先生からも指摘された、もっと要求すべきであるとの言葉に納得します。こうした現場の状況をもとに提言書が作られて行くことに期待が持てる内容でした。ありがとうございました。

日々臨床の最前線で活躍され、本日の勉強会で大変分かりやすく率直に体験を語って下さった皆様にあらためて感謝いたします。

<意見>

もう少し少人数で話し合える機会もあるとよいと思いました

看護師達が看護師の魂でこの難局を乗り越えていっている、とつくづく考えさせられました。働き方、人員の配分など、管理的側面で、具体的指針を発表していくことも必要かと思いました。

タイムリーなトピックで、オンライン形式で非会員も参加可能としていただき、感謝申し上げます。

臨床の看護師の皆さんにこのような企画がより一層届くとよいのだろうなと思いながら拝聴しておりました。感想で恐縮ですが、質疑応答で看護師の人員配置のことが話題になっていたかと思います。手厚い人員配置や勤務時間について診療報酬の面からの交渉は非常に重要ではあると思います。一方で、演者の方も発

言われていたようにと思いますが、単に人数の問題だけではないこと、また本日のトピックでもあがっていたかと思いますが、多職種との関係性の中で看護師の果たす役割という説明の中で議論を展開していただいた方が、看護分野だけでなく、周りのステークホルダーも含めて、建設的な理解同意の促進につながると思いました。

現場の看護師が最前線で踏みとどまっているからこそその covid-19 であることはもちろんですが、看護師のみに焦点が当たっているように取られないような議論の配慮も必要だと感じました。

長文乱文失礼致しました。

重症者を見ている最善線での話に胸が詰まりました。貴重な機会でした。

リモートなので、限られたやり取りにならざるをえないのがやや残念です。

こういう話をききたかったという思いです。看護師さんたちの生の声、思い、システムなど病院のとりくみをうかがえてすごくおもしろかったです。無料ということで参加しやすかったです。看護師がのみものもなく、掃除まで含めて、1 回の滞在時間で 4 時間以上もがんばっているとうかがい、音楽などもっと癒しの空間をつくってほしいのではと思いました。挿管チューブ下の場合、看護師がのみものを少し飲むのも難しいのでしょうか。

臨床の方々のご貢献に本当に頭が下がります。あの過酷な状況では、看護師を守るための勤務時間の考慮が是非とも議論され、導入されるべきだと考えます。

看護師の犠牲の態度は、患者さんを目の前にしているが故のものでもあり、逃れられないことでもあるのかと思いますが、それを支援できる仕組み等が持続性という観点からも重要だと改めて感じました。

<要望>

第 2 弾、3 弾を期待しています。この勉強会の結果が具体的な行動と社会の変化につながっていくことになるとよいと思います。

自分の病院でのコロナ患者対応で経験していたことを発表者の方が言語化してくださり、いかに看護師たちが自分を犠牲にしながらも看護を追及してきたかを振り返ることができました。短時間労働は、ぜひ政府に要望してほしいです。

今後もリアルとネットでどちらからも参加できると良いと思いました。

看護師の力を改めて実感致しました。様々な病院の状況をこのように状況共有できたことは、意義深かったです。

一点、患者と家族の面会について、未来塾の先生方にもお力を頂きたいと考えております。私は和歌山県立医科大学でリエゾンナースとしても活動しております。面会方法について iphone や ipad を用いることは、ほとんどの病院が始めておりますが、高齢者の方には中々画面も小さく見づらいのが現状です。また、小さい子どもさんは、やはりもっと近くにご家族を感じたいのが現状です。

そこで、NEC あるいは NTT 西日本の「つながる教室」が、「つながる病室」として面会の幅を広げるソリューションになると考えております。すでに NEC には 7 月の時点で、現在の面会の限界があるので「つながる教室」のソリューションを「つながる病室」にして頂けないか。それができれば患者の精神的援助のみならず、家族の病的悲嘆を予防する可能性があることをパワーポイントを作成して提示してきました。ただ、費用が 500 万。どこも今の病院の経営状況で、ここに費用を充てることは難しいでしょう。研究助成金か、費用を捻出してくれる企業などが必要だと考えております。特に重症の患者さんを受け入れておられる病院には必至の策だと考えております。和歌山県立医大からの提示程度では、NEC は動いては下さいませんでした。以下の URL が NTT 西日本のコマーシャルです。和歌山県ではこのソリューションを用いて過疎地を繋いで教育がスタートされつつあります。

<https://www.ntt-west.co.jp/ad/company/tsunagaru.html>

企業への働きかけなどでのアイデアがございましたら、ご教示頂ければと考えております。

現場の話はやっぱり貴重です。これからも多くの人に知ってもらいたい。

病院施設の看護のトップマネージャーの話を聞きたいと思いました。

貴重な会をありがとうございました。今回は COVID-19 重症患者を受け入れる病院が対象だったと思いますが、軽症者を受け入れている病院や施設などもあるかと思いますが。その病院や施設でも、重症者受け入れ病院とはまた違った、苦勞をされており、色々な事を考え取り組んでいると思います。その方たちの看護もどのように展開していたのかお聞きしたいと思いました。

医療に関わる人は医師や看護師だけではないと思います。その医療に関わる人々がそれぞれの機能を活かして、本当の意味で協働できれば、今よりもっと、より良い社会が生まれるのではないかと思います。

ありがとうございました。

今回は、COVID-19 陽性重症患者様への看護について

最前線のお話お聞かせいただき、ありがとうございました。  
非常に過酷な環境で、闘っておられる看護職の皆さまに、心から感謝いたします。  
当方は、保健所で、コロナ疑い患者さんへの電話対応をしております。  
感冒症状なのか、その他の症状なのか、コロナの症状なのか、確定的な判断は電話では限界があるなか、膨大な問合せに対応しております。  
現在、コロナウイルスの影響で、  
陽性患者様を保健所から病院へおつなぎする機会が増えたため、  
その連携が、非常に重要だと痛感しております。  
そのため、病院と保健所との連携なども、テーマとして挙げていただけますと嬉しく思います。

## 2. 今後の勉強会に関して

また、コロナ関連になってしまうのですが...

現在、病院の教育担当を担っている立場として、興味がある事があります。  
看護学生さんの実習が制限されている中、次年度以降、入職してくる方々に対して、どのようなサポートが必要なのか...臨地実習にいけていない分、どのような強みがあるのか、看護教育の現場と、臨床をどのようにつないでいけばよいのか、皆様と一緒に勉強できればと思っています。  
よろしく願いいたします。

クラスターが出た施設の看護・介護についての体験をぜひ経験者に状況を発信していただけることを願います。

今回、重症者を受け入れた病院での実践でしたが、中等度、軽症を受け入れる病院では、コロナ陽性、疑似患者さんで認知症の方を受け入れるケースもあり苦悩は尽きません。高齢化社会にでのコロナへの看護についても共有できればと思います。

COVID-19 に関しては、常にフェーズも対応も変化していきますので、引き続き状況を共有できる場となることを希望いたします。

私は外来勤務なので、外来に来る患者さんがたらい回しになる現実をどのように改善すればいいのか、他の施設さんの先進的な取り組みと、そのでの看護の役割を聞いてみたいです。  
腹臥位療法のことももっと詳しく伺いたいと思いました。

COVID-19 のことに限らず、今回のように現場で働いておられる皆さんの取り組みの様子を知りたいです。

看護界の内容などは特に看護界の外にも発信できる仕組みが欲しい

これからも看護を取り巻く今の問題を取り上げて頂いて、多くの方々の生の声や意見が聞けるような企画に期待しております。本日はありがとうございました。

全国の病院施設で感染を恐れるあまり、面会ができない状況になっています。大切な親戚が亡くなりそうな時にすら会えませんでしたし、コロナでもないのに葬式にも参列できませんでした。患者にとっての家族の存在ってとても大きいです。医療者だけでは患者の気持ちを支えるのには限界があります。感染を懸念する気持ちも分かりますが、こういった現状についても検討する機会があれば良いと思いました。

### COVID-19 トリアージ外来看護師の役割

討論時間に限りがあると思いますので、このような事後アンケートで出た意見やアンケート結果について公表いただけると嬉しいです。

現場の思いや悩みを政策や法律に活かすことが、非常に重要なことであると思います。ぜひどのような形で、看護界の変革を起こしていこうとされているのか、看護未来塾には期待をしております。